

■第9回神戸市地域公共交通活性化協議会 議事要旨

【開催日時】令和4年3月29日（火）10:00~12:00

【開催場所】三宮研修センター 8階 805号室

【出席者】委員32名（欠席4名）

【議事（主な意見交換の内容）】

議事（1）神戸市地域公共交通計画の進捗

<事務局より、資料3・4・7について説明>

<各交通事業者より、資料5・6について説明>

○兵庫県タクシー協会 下谷委員

- ・国土交通省は、令和3年度のバリアフリー法に基づく基本方針改正に伴い、福祉タクシーの導入台数について令和2年度までに約44,000台という目標を、令和7年度までに約90,000台に引き上げている。また、各都道府県における総車両台数の約25%をUDタクシーとすることも掲げている。神戸市地域公共交通計画における数値目標に、UDタクシーの導入を位置付けられないか。

○事務局

- ・令和2年度に各委員からご意見をいただきながら大幅に中間見直しを行ったが、今後も各委員からのご意見も踏まえ、中間見直しに捉われることなく、必要に応じて検討していきたい。具体的な内容は今後の検討とさせていただきたい。

○扇タクシー 成川委員

- ・以前に市からJR三ノ宮駅北側のタクシー乗り場のテント屋根を作り直すか改修してほしいという話があり、タクシー協会で補修することになっている。当該場所については、都心三宮の再整備により大きく変わるとも、しばらくこのままだとも聞く。どうなるのか教えていただきたい。

○神戸市都市局都心再整備本部 本田委員

- ・都心三宮の再整備により、将来的には大々的に変えていくと考えているが、一度に変えることは難しい。令和元年度に三宮クロススクエアの社会実験を行って分かった課題を踏まえ、まずは三宮クロススクエアの東側の整備を進めていきたいと考えている。現在行っている三宮北交差点の改良については、その実験結果で分かった課題を解消するための方策として実施している。三ノ宮駅北側は一足飛びにはいかず、整備手法も含めて現在検討を進めているが、まずは三宮北交差点の改良に伴う広場改修ということで、工事を進めている。長期的な部分は、もう少し時間をかけて整備の在り方を検討していきたいと考えている。

○神戸大学 正司委員

- ・交通事業者間で連携して計画を進めている動きがあることが嬉しい。実施事業や実施予定事業が交通事業者別になっているので、交通事業者間の連携が表現できるようになると良い。また、地域との連携についても、交通事業者が各取組の中に記載いただいているが、別で分かるように記載しても良いと思う。

○事務局

- ・実施事業や実施予定事業については、例年同一の様式を使っているが、事業者が記載しやすい形で様式を変えることも考えていきたい。

○武庫川女子大学 水野委員

- ・令和3年度に取り組んでいる望海台地域のデマンド運行支援（実証運行）について、使用している予約アプリの汎用性が高いことも聞いているので、新しい技術発展も含めて、地域コミュニティ交通を求める市民に広く情報発信をして進めていただきたい。

○事務局

- ・望海台地域でのアプリの使い勝手などは引き続き検証しながら、他の地域コミュニティ交通にも反映できるように考えていきたい。
- ・望海台地域のデマンド運行支援（実証運行）について、利用者は高齢者が多く、アプリを使って予約すること自体に抵抗があるのが実態である。地域でアプリを使える方や市担当者が一緒になって使い方の説明会を数回開催したり、地域で結成していただいている走らせる会のメンバーが積極的に予約をしたりと、地域の方にも協力していただきながら進めている。

○神戸大学 織田澤委員

- ・神戸市交通局と山陽バスでポイントサービスを開始されたということで、単なる割引になると民間事業者に波及しないので、施策の効果として、自動車利用からの転換があるかなどを確認した方が良い。また、現状では、バス利用でしかポイントサービスが使えないが、地域でポイントが使えるようになると広がりもあると思うので、そのような予定があるかお聞きしたい。

○神戸市交通局 児玉委員

- ・ポイントサービス登録可能なカードをご利用の方のうち、実際にポイント登録している方は2割程度で、若者より中年以上の方のご利用が多い傾向がある。
- ・現時点ではバスポイントサービスとして、鉄道等で実施しているポイントチャージをすることはバスには不向きだろうという考えもあり、ポイントが自動的に貯まり、バス乗車料金額を上回るポイント残高があれば自動的にポイントを充当するというシステムになっている。バスは同一区間を複数の会社が運行する傾向があるため、神姫バスとの定期券共通化などの取組も含め、お客様がバスの色（会社）を意識せずにご利用いただけるようなシームレスな利用環境を作ることが、公共交通利用の魅力を高めていくことになると考えている。今後、ポイントサービスの拡充についても積極的に取り組んでいきたい。

○山陽バス 横井委員

- ・共通ポイントサービスでは、神戸市交通局で貯めたポイントを山陽バスで利用したり、逆に山陽バスで貯めたポイントを神戸市交通局で利用したりすることが可能になっている。共通ポイントサービスにより、バスの色（会社）関係なく、市民が利用しやすい環境づくりが実現できるのではと考えている。

○神戸大学 織田澤委員

- ・数値目標について、バス停留所のベンチ新設数が目標値と実績値で大きく異なる。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で民間事業者も投資が難しいこともあるなかで、目標設定は適切か、適切であれば達成に向けてボトルネックとなるものは何かを分析した方が良い。その辺りの考えをお聞きしたい。

○事務局

- ・ご指摘の通り、目標値に対して伸び悩んでいる。設定根拠について、計画策定当初、神戸市交通局として年間何基設置するか、民間事業者に対してはベンチ設置の補助制度を用いて年間何基設置していただくかを検討して設定した。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、各事業者を取り巻く環境も非常に厳しくなっており、当初の設定根拠通りに進められていないのが現状である。目標達成に向けて、例えば、神戸市地域公共交通活性化ワーキングの中で、バス停留所のベンチ新設に関する考え方なども聞きながら、市民のニーズも踏まえて、市とバス事業者で目標達成に向けて考えていきたい。

○神戸市自治会連絡協議会 堂内委員代理

- ・交通事業者同士の連携による取り組みがかなり進んでいると思った。
- ・都心三宮の再整備について市民は強い関心があり、委員の地域公共交通への熱意に非常に期待している。

○小谷会長

- ・交通事業者の連携が神戸市全体の公共交通ネットワークの利便性向上にどうつながるか、その努力を市民にうまく伝わるようなまとめ方も考えていただきたい。
- ・ポストコロナで各交通事業者が運行便数やルートの見直しをしているが、ポストコロナを見据えて、どのように地域公共交通サービスの戦略を立てていくかは今年度以降の大きな課題になる。都心三宮の再整備など、神戸市のまちづくりが進んでいくなかで、公共交通との連携も説明していくことが必要だと感じた。

議事 (2) 市民 WEB アンケート結果の報告

<事務局より、資料 8 について説明>

○神戸大学 織田澤委員

- ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により公共交通から自動車に転換し、その後も公共交通に戻らないだろうと回答した方が、どの目的でも数パーセントいて、無視できない数字だと感じた。

○小谷会長

- ・ポストコロナで生活様式が変わると言われている。現在、公共交通のサービス水準は需要に合わせた形になっているが、今後どのように戦略を立てていくかを考えていく必要がある。

○神戸大学 正司委員

- ・自動車を使ってみたら意外と便利だったから戻らないという回答が多かったのではと思う。自動車に変わった方は、意外と渋滞していない、駐車場が見つかると思ったので

はないかと考えるが、駐車場はすぐに容量制約が出てくるので、やはり不便だということで公共交通に戻る可能性もあると思う。逆に言えば、それよりも公共交通が不便だと思われないように、公共交通は手軽に利用できて便利と思わせるような戦略がある。例えばポイントサービスのように、公共交通はもっと便利になっているということを市民にしっかり伝えることが大切だと思う。

○小谷会長

- ・交通事業者にはポストコロナの戦略にも、このアンケート結果をお役立ていただければと思う。

○事務局

- ・令和2・3年度は国や県との協調補助等で支援したが、今後も支援の在り方を考えていきたいと思っている。また、公共交通の利用促進を進めることが、公共交通の利用者の取り戻しに少しでも貢献できるのではと考えているので、交通事業者と連携しながら考えていきたい。

○阪急電鉄 奥野委員

- ・テレワークなど、働き方そのものが変わってきているので、そのようなことが分かる調査は可能かどうか聞きたい。

○事務局

- ・令和2・3年度に実施した市民WEBアンケートでは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でテレワークに変わった方の割合は分からないが、来年度以降のWEBアンケートではそういう設問も取り入れていきたい。

○小谷会長

- ・生活様式の変化が交通にどう現れてくるかということについて、他の既存調査も含めて、情報をまとめていただきたいと思います。

○神戸大学 正司委員

- ・交通手段だけでなく、まちに出てくるかどうか自体も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けているので、働き方等の変化も合わせて分析することが重要だと思う。

○小谷会長

- ・将来の交通戦略が誤った方向にならないように、ポストコロナにおける人々の行動様式の変化を把握することが大事である。

議事 (3) 神戸市地域公共交通活性化 WG の進捗

<神姫バス 佐藤課長より、資料9について説明>

(意見なし)

議事 (4) その他報告事項

<近畿運輸局片田委員より、資料10について説明>

(意見なし)

<神戸市企画調整局交通政策課原田委員より、資料 11 について説明>

○神戸大学 織田澤委員

- ・研究者として非常に興味深いが、統計改革も進む中で、このデータはどの程度公開・活用できるのかお聞きしたい。

○神戸市企画調整局交通政策課 原田委員

- ・神戸市としてオープンデータの推進を進めている。3月中旬に神戸市スマートシティ推進協議会も設立し、オープンデータもできるだけ公開しながら広く使っていただけるようにしていく必要があると考えている。交通データは神戸市交通局の判断になってくるが、どのように公開していけるか考えていきたい。

○神戸市交通局 児玉委員

- ・データを公開して、こちらが気づかない視点での分析からヒントを得られればという思いも持っている。ただし、IC カードデータは個人に紐づく部分もあり、制約条件がいくつかある。引き続き、意見交換をさせていただければと考えている。